

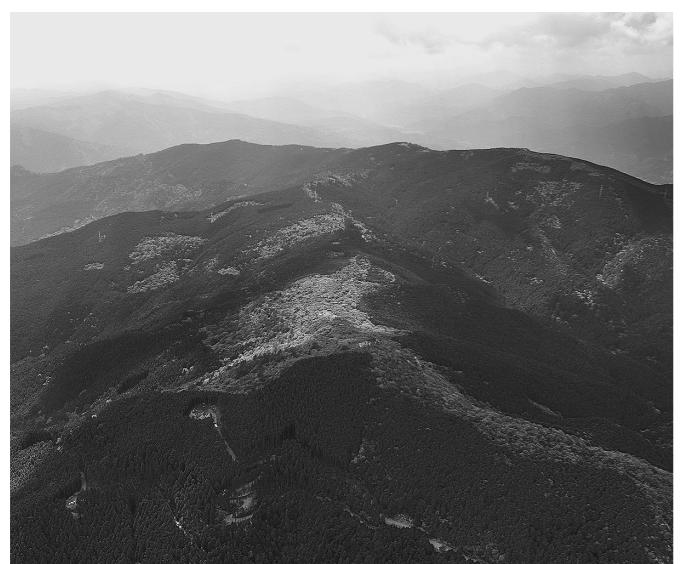
参加して耕作を継続することについて、責任を果たせないと
いう事例が多くある。そこで、平成26年と
平成27年を比較して、
参加人数・耕作面積・
報奨金を聞く。

△重森一宗譜真
先日、国から50年
を超して登記がなさ
れていない実態の報
道があり、その中に
本町の名前もあつた



△重森一宗議員
木材の搬出
が進んでいる
が、これと比較して
作業道が荒れてき
た。この作業道の開
設にメーター2千円
からメーター1万円
以上2万円を超して

との事業ができたが
この事と、の月を大
豊町森の日としてい
るが関係はあるのか。



支払制度においても、協同して協定には参加したいけれども5年間という期間に躊躇するというような状況もあり、そういう状況が稻苗の箱数に表れてきていると思つ。

割近く減っている。面積的にも、総面積で504ヘクタールが270ヘクタール程度と、半分までいってないが4割ぐらい減っている。中山間直接支払いの交付金額は6,200万円を超えて

が、町長はこのように問題について、困りで審議する会に委嘱として参加しているが、どのような審議が行われているか。

の作業道もあり、その差は2トン車・10トン車の用途によつて違つてくるが、いずれにしろ作業道は、山林業者だけでなく、山林所有者、地元の方も利用しているので、補修が必要とな

▽岩崎憲郎町長
作業道の管理については、作業道としての目的を考えた上で、管理を考えていかなければいけない。現場、現場によつて、管理の方法も違ひ、様々な要因を考慮し

える郷づくり事業の中に、1事業5万円という限度額で制度を設けている。具体的には、ゆたかな森づくり条例に基づく集落等での事業実施を考えている。



Q12

問 林業施策を問う

▽岩崎憲郎町長
経済効果について、
正確な数字等は掴んで
いない。世界大会
については、隣接の
三好市から協力依頼
があり、協力して取
り組む。



ラフティング

た町民も高齢になり、
その人達に恩恵にな
るような政策を。

▽佐々木文三議員
現在、工事中である津家のストックヤードは、非常に使い勝手が悪いのではないか、また、費用



Q13

問 農林業施策を問う

その人達に恩恵に在るような政策を。た町民も高齢になり、



27年3月「第7次大豊町総合計画」を基に、同じく10月には「大豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が作成され、この6月議会に住民代表・学識経験者及び各種団体による「おおとよ創生総合戦略推進会議」において、検証が行われているが、その推進会議の報告、若しくは提言等を聞く。

大豊町まち・ひと・しごと
創生総合戦略

